

## 一般社団法人日本医真菌学会 2020 年度第 3 回理事会議事録

日時：2020 年 7 月 22 日（水）18：00-20：00

会場：八重洲倶楽部第 7 会議室

東京都中央区八重洲 2 丁目 1 番 八重洲地下街地下 2 階

現地出席：

澁谷和俊（理事長） 杉田 隆、坪井良治、宮崎義継 以上理事 4 名  
若山 恵（幹事）

Web 出席：

泉川公一、大野尚仁、亀井克彦、神田善伸、福田知雄、槇村浩一 以上理事 6 名  
竹末芳生、三鴨廣繁 以上監事 2 名

欠席：

望月 隆（理事）

議題：

報告

### 1. 前回理事会議事録確認（宮崎総務理事）

2020 年度第 2 回理事会議事録の承認を行った。

### 2. メール理事会結果確認（澁谷理事長）

2020 年度第 3 回、4 回メール審議の結果確認を行った。

### 3. 2020 年度事業報告（宮崎総務理事）

事業報告として、会議の開催（理事会 3 回、代議員総会 1 回、会員総会 1 回）、第 63 回学術集会の開催（亀井克彦会長会期：2019 年 10 月 10 日（土）、10 月 11 日（日）会場：オークラ千葉ホテル）した。学術集会 2 日目は豪雨災害のため現地開催を中止とし、誌上開催とした。会誌 60 巻 4 巻～61 巻 3 号の刊行と各種委員会活動を行ったことが述べられた。また、代議員選挙、理事選挙を行ったことが報告された。

### 4. 会員異動報告（宮崎総務理事）

2020 年 6 月 30 日現在の会員数は、個人会員 927 名（国 925、海外 2）、顧問会員 1 名、奨励会員 29 名、名誉会員 24 名（国内 22、海外 2）、賛助会員 18 社（53 口）、団体購読 21 名であることが報告された。

### 5. 各種委員会報告

#### 1) 編集委員会報告（宮崎理事）

- i. 論文の投稿状況について報告があった。昨年同時期に比べ論文数が減っているが、これは執筆依頼をしなくなったためである。

ii.インパクトファクターについて

2020年は未収載となったが、論文の引用数については引き続きカウントされており、対象となっている。

2) 用語委員会報告（大野理事）

i.シリーズ用語解説（No.26-27）を学会誌に掲載した。

ii.日本医学会分科会用語委員会資料（以下2点）を共有し、委員会で確認を行っている。

・遺伝学用語に関するワーキンググループからの報告

・世界保健機関(WHO)による新型コロナウイルスに関する「疾病、傷害及び死因の統計分類第10版(ICD-10)」における対応について

3) 将来計画委員会報告（神田理事）

報告事項なし。

4) ガイドライン検討委員会報告（泉川理事）

クリプトコックス症の診断・治療ガイドライン2019のサマリー英訳を進めていたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で停滞していた。作業を再開したので早々に仕上げに取り掛かる。

i.侵襲性カンジダ症に対するマネジメントのための臨床実践ガイドライン（竹末監事）

作業進捗状況の報告があった。64回学術集会でシンポジウムを開催し、2021年度内に発刊する予定である。

ii.希少深在性真菌症の診断・治療指針作成委員会（澁谷理事長）

報告事項なし。

5) 支部・関連学会委員会報告（泉川理事）

各地区の開催状況および今後の予定について報告があった。新型コロナウイルスの影響により中止や延期となった会が多いことが報告された。

6) 疫学調査委員会報告（福田理事）

疫学調査の全体スケジュール、調査依頼をする病院の選定、倫理審査、調査項目について報告があった。8月中に対象の機関に意思確認をし、9月中に正式に依頼文書送付を予定している。2021年1月1日～同年12月31日までを調査期間とする予定である。

7) 教育委員会報告（杉田理事）

第94回日本細菌学会総会（2021年3月23-25日）との共催を検討している。

8) 広報委員会報告（槇村理事）

報告事項なし。

9) 専門医・認定師委員会報告（望月理事：欠席）

報告事項なし。

10) 規約検討委員会報告（澁谷理事長）

報告事項なし。

11) 倫理委員会報告（亀井理事）

報告事項なし。

12) 利益相反委員会報告（亀井理事）

報告事項なし。

13) 顕彰制度検討委員会（槇村理事）

報告事項なし。

6. 第 63 回総会報告（亀井前会長）

前回理事会で承認された収支決算について説明があった。

7. 第 64 回総会準備報告（澁谷会長）

新型コロナウイルス感染予防のため、規模を縮小した現地開催と Web 配信を利用したハイブリッド開催とすることが報告された。現地の人数を制限するため、事前参加登録者のみ現地参加を認める方針である。また懇親会等は中止とした。前日開催の理事会、代議員総会も Web 参加を認めることで一致した。

8. 第 65 回総会準備報告（宮崎次期会長）

開催概要について述べられた。

9. 第 66 回総会準備報告（杉田次々期会長）

開催概要について述べられた。続いて坪井理事より国際学会の状況について報告があった。ISHAM Asia 2020（バンコク）、ISHAM 2021（ニューデリー）がそれぞれ 1 年延期となった。これを考慮すると APSMM 2022 の日本開催をした場合、海外からの集客面で厳しい状況が予想される。本会学術集会と APSMM の共同開催の時期について再度検討することとした。

10. 関連国際学会・会議に関する報告（坪井理事）

9. で述べた。

11. ICD 制度協議会報告（望月理事：欠席）

報告事項なし。

## 12. 代議員選挙および理事選挙結果報告（若山幹事）

2020年3月6日の代議員選挙ならびに理事長推薦により、次期代議員に選出された90名について報告があった。続いて2020年6月26日の理事選挙の結果、当選となった9名について報告された。

以下次期代議員90名

基礎領域	臨床領域	
安達 禎之	足立 真	多田 弥生
石橋 健一	天谷 雅行	田邊 洋
市川 智恵	荒岡 秀樹	常深 祐一郎
梅山 隆	飯泉 陽子	出光 俊郎
大野 尚仁	五十棲 健	時松 一成
金子 健彦	池田 志孝	徳久 弓恵
金子 幸弘	石崎 純子	中村 茂樹
加納 壘	泉川 公一	二宮 淳也
亀井 克彦	大野 秀明	野口 博光
川上 和義	小川 祐美	畑 康樹
木村 雅友	角谷 廣幸	原田 和俊
金城 雄樹	掛屋 弘	福田 知雄
倉門 早苗	河井 正晶	福山 國太郎
古賀 裕康	神田 善伸	藤崎 竜一
佐藤 一朗	菊池 賢	古江 増隆
佐野 文子	北見 由季	前崎 繁文
澁谷 和俊	木村 有太子	松田 哲男
清水 公德	串間 尚子	丸山 隆児
杉田 隆	楠原 正洋	三鴨 廣繁
高島 昌子	小林 裕美	光武 耕太郎
知花 博治	齋藤 磨美	宮崎 泰可
張 音実	佐藤 俊樹	宮崎 義継
豊留 孝仁	佐藤 友隆	迎 寛
中村 遊香	佐野 隆夫	望月 隆
萩原 大祐	須賀 康	森 毅彦
槇村 浩一	清島 真理子	山岸 由佳
村山 琮明	高園 貴弘	山田 七子
矢口 貴志	竹末 芳生	山本 善裕
山田 剛	竹田 公信	吉田 耕一郎
若山 恵	竹中 基	渡辺 哲

以下理事 9 名

基礎領域：大野 尚仁、澁谷 和俊、杉田 隆、槇村 浩一

臨床領域：泉川 公一、神田 善伸、原田 和俊、宮崎 義継、望月 隆

13. アスペルギルス症の診断・治療 GL のポルトガル語翻訳について（澁谷理事長）

千葉大学真菌医学研究センターの渡邊哲先生の JICA/AMED に関わる活動において、アスペルギルス症の診断・治療ガイドラインをポルトガル語に翻訳し、活用したいと申し出があり、許可したことが報告された。

14. 第 23 回酵母合同シンポジウムの延期（澁谷理事長）

同シンポジウム実行委員長の松浦彰先生から延期の連絡があった。

審議：

15. 2021 年度事業計画案（宮崎総務理事）

事業計画として、会議の開催（理事会 4 回、代議員総会 1 回、会員総会 1 回）、第 64 回学術集会の開催（澁谷和俊会長 会期：2020 年 10 月 8 日（金）、10 月 9 日（土）会場：京王プラザホテル）、会誌 61 巻 4 巻～62 巻 3 号の刊行を予定している。また、侵襲性カンジダ症に対するマネジメントのための臨床実践ガイドラインの発刊を行う。異論はなく承認された。

16. 2020 年度決算見込みおよび 2021 年度予算案（望月財務理事：欠席）

代理で事務局から報告された。

・ 2020 年度決算見込み

収入では会費収入が近年より堅調であり転載許諾料が多く、支出では理事会、委員会開催が中止または Web 開催となり経費が少なかったことが大きく影響し、約 118 万円の黒字決算を見込んでいる。支部・関連学会で補助金を受け取っていない主催者に補助金を支払う可能性があるため、黒字額は減額の可能性がある。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響により開催中止となった会に対して、助成することが提議され、承認された。

・ 2021 年度予算案

各費目ともに例年通りの収支を計上したが、懸案事項となっている学会誌のオンラインジャーナル化や新しいカンジダ症ガイドラインの発行部数によって大きく変更の可能性がある。雑誌のオンラインジャーナル化は広告料が課題となり、クリアになるまで見送ることとした。また、赤字予算であるため、支出削減を次回理事会までに検討し、改めた予算の承認を行うこととした。

17. 専門医認定の件（望月理事：欠席）

専門医審査の結果（以下 10 名の専門医認定審査を行い、更新 8 名、更新留保 1 名、新規 1 名）が報告され、異議なく承認された。

（新規）

鈴木 裕子 がん研有明病院健診センター

(更新)

篠田 英和

高森 建二

清 佳浩

丸山 隆児 まるやま皮膚科クリニック

時松 一成 昭和大学病院

須賀 康 順天堂大学医学部附属浦安病院皮膚科

竹田 公信 金沢医科大学

岩澤 真理 きさらづ皮膚科クリニック

(留保)

岩田 貴子

#### 18. 学会賞選考の件 (大野理事)

下記 2 名の推薦があり委員会で審議した結果、両名を受賞資格ありと認めた。異論はなく両名の受賞を承認した。

氏名 : 大林 民典 (東埼玉総合病院 臨床検査科 部長)

受賞業績: 深在性真菌症診断のための血中 (1→3) - $\beta$ -D-グルカン測定法の開発

氏名 : 杉田 隆 (明治薬科大学・薬学部・微生物学研究室 教授)

受賞業績: 病原真菌の多様性解析に基づく疾患の理解

#### 19. 学会奨励賞選考の件 (亀井理事)

下記 2 名の推薦があった。候補者が委員長所属機関の方であったため、選考方法を以下のようにして実施した。

- 1) 委員の互選により副委員長を選考する。
- 2) それぞれの候補者に関して、可否を投票、集計する。
- 3) 投票結果について、副委員長が判断する。
- 4) その結果について、委員長から理事会に最終候補者として上申する。

互選により副委員長には若山恵委員が選任された。今後のために以上を申し合わせ事項として運用することとした。委員会審議の結果、両名を受賞資格ありと認めた。異論はなく両名の受賞を承認した。

氏名 : 上野 圭吾 (国立感染症研究所真菌部)

研究業績: 病原性酵母の感染機構と真菌症に対する生体防御機構に関する横断的研究

氏名 : 村長 保憲 (千葉大学真菌医学研究センター)

研究業績: フザリウム症の原因菌種と環境真菌叢との関連性に関する研究

#### 20. 名誉会員および功労会員推戴の件 (澁谷理事長)

細則に従い以下名誉会員 2 名、功労会員 11 名が推薦され、承認された。

	氏名	所属
名誉会員	河野 茂	長崎大学
	二木 芳人	昭和大学

	氏名	所属
功労会員	小川 賢二	国立病院機構東名古屋病院
	加藤 卓朗	まるやま皮膚科クリニック
	門田 淳一	長崎市民病院機構 長崎みなとメディカルセンター
	鈴木 基文	帝京大学
	田中 玲子	千葉大学
	坪井 良治	東京医科大学
	照井 正	日本大学
	仲村 健二郎	日本歯科大学
	藤広 満智子	揖斐厚生病院
	武藤 正彦	医療法人社団 宇部興産中央病院
	山田 裕道	国際親善総合病院

#### 21. 医学会からの依頼（宮崎理事）

下記2件について回答するため役員の意見を7月末まで募り、回答の内容は宮崎理事に一任することとした。

- 1) 第31回日本医学会総会2023の学術プログラム構成に関するアンケート
- 2) 未来への提言に関する意見

#### 22. 会員増加施策（宮崎理事）

調剤系薬学分野や臨床検査分野の若手研究者に入会してもらい、学会活動に貢献してもらうための施策について説明があった。審議の結果、学会として企業等のグラントにアプライすることが承認された。また、検査技師向けのセッション設置も効果的であるなど意見があった。

#### 23. 会費決済方法変更の件（事務局）

会費の納入率を上げるべく、会費支払方法多角化の検討を行った。事務局からクレジットカード、銀行振り込み（ペイジー）、コンビニエンスストアでの支払いなど提案があった。会員の利便性が向上するが、費用面で現在より支出が多くなることもあり継続審議とした。

#### 24. その他

##### 1) 会費滞納者の退会処分の件（澁谷理事長）

前回理事会報告時点では100名以上の会費滞納者がいたが、現在60名程度に減った。新型コロナウイルス

ルス感染拡大の影響も考慮し、もう一度リマインドを出したうえで、期日までに支払いがなければ退会処分とすることとした。

## 2) 名誉会員・功労会員・学会賞・奨励賞推薦のお知らせ通知方法の変更（澁谷理事長）

4月に掲題の4種類の推薦依頼を1通にまとめて代議員へ依頼をかけているが、気に止まらないこともあり、分類して案内を出すことについて提案があった。また、推薦依頼の方法を現行の郵便から学会ホームページ掲載およびメール配信とすることも提案され、すべて承認された。

## 3) 報告事項における審議事項

### i. 編集委員会（宮崎理事）

優秀論文賞に下記を選出したことが報告され、承認された。

Authors: Naobumi Tochigi, Sota Sadamoto, Minoru Shinozaki, Megumi Wakayama, and Kazutoshi Shibuya

Title: Comparison in Quantities from Including Angles Comprising Lines of Hypha Themselves in Histological Images between Mucorales and Aspergillus: An Exploration into Basic Algorithm Supporting Future Automated Histological Image Analyzing System to Isolate Mucorales from Other Filamentous Fungi

Medical Mycology Journal Vol. 60 No. 4 収録

### ii. 教育委員会（杉田理事）

第32回日本臨床微生物学会総会・学術総会（総会長：三澤 成毅 先生）との共催が提案され承認された。（2021年1月30日（土）共催シンポジウム：侵襲性カンジダ症における薬剤耐性のインパクト）

続いて、第8回皮膚真菌症指導者講習会（8月29日）開催中止が提案され、異論はなく承認された。

2020年7月29日

議事録署名人

理事長 澁谷 和俊

監事 竹末 芳生

三嶋 廣繁